

ため、建築研究所に室内気候実験室を設けた。本実験室は半地下式直径 10m、高さ 6m の円形室で、壁厚 60 cm、内壁面はパーライトモルタルの吹付け保温され、室内の温湿度が任意のプログラムに従って自動的に変動するようになっている。室内に実大の建物模型を入れ、その暖冷房時における室温の状況、冷暖房負荷の実測を行うようになっている。

機械は Water heater	20kw
Space heater	30kw
冷凍機容量	20200kcal/h (75kw)

Unit Cooler 3台
横川式プログラムコントロール装置

よりなっている。

実験室内の温度は主として外気温の変動の典型的なものを再現できるようになっている。温度の変化割合は1時間約 5°C 程度であるから、1日の温度変化を ±10°C としたとき 4～6 時間の周期で1日の変動を再現することができる。勿論温湿度を一定に保持することも可能である。

生気候に関する研究会

(日本気象学会, 環境生理集談会, 国際生気候・生気象学会日本支部共催)

日 時 昭和36年9月2日(土曜日)午前9時より

会 場 比叡山ホテル(京都市左京区比叡山一本杉 電話(78)1126)

〔I〕 南極越冬の医学に関するシンポジウム(各題20分)

- ① 南極における生理機能の馴化……………(東大物療内科) 東 威(東京女子医大整形外科)景山孝正
- ② 南極における傷病……………(東大外科) 吉岡 隆
- ③ 南極越冬時の生活科学……………(京成電鉄病院) 武藤 晃
- ④ 南極に於ける社会生活……………(京大地球物理) 北村泰一
- ⑤ 南極における気象の特徴……………(気象庁南極事務室) 守田康太郎, 村越 望
- ⑥ 南極越冬余談……………(原子力研究所) 西堀栄三郎

〔II〕 海外だより(各題15分)

- アメリカにおける環境生理研究の現状……………(北大生理) 伊藤真次
- アラスカ航空医学研究所について……………(京都府立医大生理) 吉村寿人

〔III〕 一般演題(各題10分)

- ① 季節病の冬季集中について……………(気 象 研) 靄山政子
- ② 年令別季節病カレンダー……………(//) 同 上
- ③ 主要疾患による死亡の季節差について……………(順天堂大, 衛生) 菊池正一, 細見韶子
- ④ 突発性発疹症(Exanthema subitum) と気象……………(東京瀬川小児科病院) 保坂泰夫
- ⑤ 濠州回遊船内における不快指数について……………(気 象 研) 神山恵三, 木藤熙子
(日本産業巡航船見本市協会) 直江友嗣
- ⑥ 不快指数の限界点の生気候学的意味について……………(気 象 研) 神山恵三
(東京医歯大, 衛生) 前田 博, 山口裕一
(順天堂大, 衛生) 菊池正一, 窪田為延
- ⑦ 疾病と気圧配置の関係について二, 三の実例……………(気 象 庁) 根本順吉
(杉並中央生協診療所) 川上 武, 笠井 和, 鎌高招治
- ⑧ 気圧療法の機序に関する研究(その2)……………(千葉労働福祉衛生会病院) 蜂谷 清
- ⑨ リウマチ痛と低気圧及び前線の通過について……………(九大温泉研究所) 坂上 務
- ⑩ Behçet 症候群の気象医学的研究……………(東大物療内科) 清水 保, 横張竜一
松本都喜夫, 狩野藤一
- ⑪ 富士山頂研究所に於ける疲労調査成績について……………(日本山岳会研究部) 辰沼広吉
- ⑫ 赤道海域気候の人体に及ぼす影響について……………(慈恵医大, 生理) 小野三嗣
- ⑬ 寒冷環境下の大脳機能について……………(慈恵医大, 生理) 佐伯 聡
- ⑭ 高圧曝露後の減圧が皮膚に及ぼす影響の形態学的研究(東京医歯大, 解剖) 小山千万樹
- ⑮ 低圧環境における運動時の代謝について……………(航空医学実験隊) 万木良平, 飯塚道彦
- ⑯ 生物時計よりみた甲状腺機能……………(新潟大, 衛生) 渡辺巖一, 植松 稔
- ⑰ 暑気に対する体温調節機構についての考察……………(熊本大, 体研) 緒方維弘, 佐々木 隆, 村上 恵